

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26285032

研究課題名(和文)一票の格差に関する包括的研究：世界の現状・原因・帰結

研究課題名(英文) A Comprehensive Analysis of Malapportionment around the World: Situation, Causes, and Consequences

研究代表者

粕谷 祐子 (Kasuya, Yuko)

慶應義塾大学・法学部・教授

研究者番号：50383972

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、議会選挙における一票の格差に関し、3つの柱を立てて研究を行った。第1は、世界の一票の格差の現状を示すデータベースの作成である。これは、140カ国の最近の下院選挙を対象に、いくつかの指標をもとにした測定を行った。第2は、一票の格差が起こる要因についての検討である。これについては、多国間比較データベースを用い、民主主義の程度と一票の格差の程度の間には逆U字の関係があることを示した。第3の柱は、格差の帰結に関する検討である。例えばブラジルの場合では過大代表されている地域の方が経済が停滞すること、マレーシアでは競合的権威主義のもとで与党の権力維持に寄与し民主化を阻害していることを示した。

研究成果の概要(英文)：This project analyses the situation, causes, and consequences of legislative malapportionment around the world. It has three research components: (1) measuring the degree of malapportionment, (2) investigating the causes of malapportionment, and (3) analyzing the its consequences. The first part yielded the database that compiles the degree of lower chamber malapportionment for 140 countries. Several papers were written on the causes of malapportionment. The main findings are that the degree of malapportionment increases as the electoral competition becomes more competitive, and decreases as the degree of executive constraints (such as the presence of independent judiciary). As for the consequences, members of this project found that malapportionment harms economic development of overrepresented districts in the case of Brazil. In the context of electoral authoritarianism, it reduces the electoral violence.

研究分野：政治学

キーワード：選挙制度 一票の格差 投票価値の平等

1. 研究開始当初の背景

選挙における一票の価値の地理的格差 (malapportionment; 以下、一票の格差) は、政治制度研究、政策研究、憲法学などの諸分野にまたがる重要な問題である。その理由は、これが近代民主主義の基本理念である「一人一票の原則」を侵害するだけでなく、過大代表されている選挙区に対する税制・交付金における優遇、ひいては経済格差の増大につながる事が判明しているからである。また、新興民主主義国の場合では、権威主義期エリートの権力の温存や政治的競争の阻害という意味で民主主義の質に対しても望ましくない影響があると指摘されている。

このように重要な問題でありながら、一票の格差に関する実証的研究は非常に立ち遅れており、いまだ明らかになっていないことが山積している。第1に、そもそも世界各国ではどの程度の一票の格差が存在するのかわかっていない。既存研究では、78カ国に対する一票の格差の指標が計算されている。しかし、多くの新興民主主義国や、野党の活動が自由でないながらも選挙をおこなっている「競争的権威主義体制」における一票の格差の程度についてはほとんど未知の状態であり、またデータの存在する国においても一回の選挙結果をもとにした指標のみの場合が多く、時系列データがほとんどの国に関して存在しない。第2に、一票の格差がおこる要因についての分析は非常に少ない。これまでの研究で明らかになっているのは、小選挙区制という制度的要因と、経済格差という社会経済的要因のみである。これらの他にもどのような要因により一票の格差が生ずるのかを分析することは、その是正策を探るうえで非常に重要である。第3は帰結に関する研究の不足である。例えば既存の研究では、アメリカや日本の事例研究から一票の格差が高いと政府交付金配分の歪みが生じる傾向にあることが分かっている。しかし、それがどのようなメカニズムでおこるのかについては、議会での予算配分過程がブラックボックス化されており明確でない。また、競争的権威主義における体制維持への影響も例えばマレーシアの新聞等で指摘されながらも学問的解明が全くといっていいほど進んでいない。

上記にみるように一票の格差という研究課題に対し多くの側面で分析が進んでいないことは多くの政治学研究者が共有する認識であったが、研究代表者及び研究分担・協力者が学会等でこれを話し合うなかで、包括的な研究を共同でおこなおうという着想に至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、一票の格差に関し、世界各国ではどの程度の格差があるのかを明らかにしたうえで、格差はどのような原因でおこるのか、また、どのような帰結をもたらす

のかを明らかにすることである。一票の価値は、現在の日本で問題になっているだけでなく、世界の多くの国が抱える問題である。これは民主主義の理念の侵害につながるだけでなく、様々な実質的な利害対立を生むことが最近の研究で判明しつつある。しかしながら、現在の研究状況は一部の国に限られたものや分析の射程が限られたものが散在するにとどまっている。本研究は、一票の格差を包括的に検討することで、政治学における知見の蓄積だけでなく、司法判断の際の基礎的情報の提供及びガバナンス実務の向上に対しても貢献することをめざす。

3. 研究の方法

本研究は、国際的な現状把握、原因分析、帰結分析を主な構成要素とする。研究代表者・研究分担者・連携研究者はワークショップや学会参加において相互の意見交換を頻繁におこない、互いの研究の向上を図った。具体的には、データベースの作成、現地調査(マレーシア及びブラジル)、先行研究のレビュー、そして各自の論文に対するフィードバック等である。特に最終年度においては、学会報告や公開ワークショップを通じて研究成果の公表を行い、研究の公開に務めた。

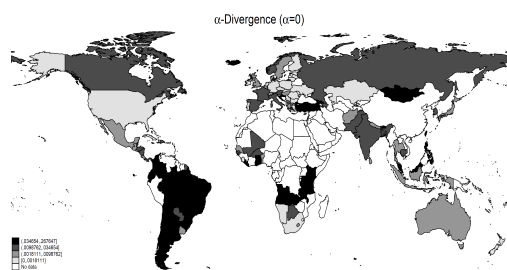
4. 研究成果

本研究では、議会選挙における一票の格差に関し、3つの柱を立てて研究を行ったが、以下ではそれぞれの柱における成果を述べる。

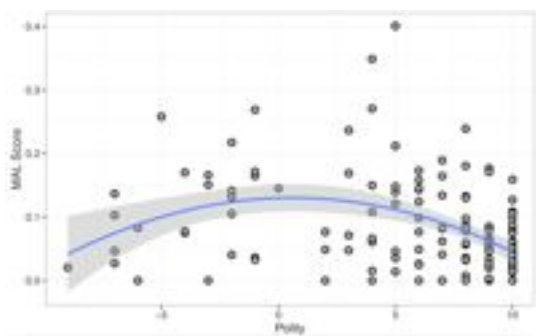
第1は、世界の一票の格差の現状を示すデータベースの作成である。これは、140カ国の最近の下院選挙を対象に測定を行った。一票の格差の測定方法には、既存研究において最大と最小の有権者数の選挙区の有権者数比率、ハーンビー=ルースモア指標などがあるが、和田・鎌原を中心に、 α -ダーバージェンスという分散指標を利用した測定方式を開発した。これを元に、世界約140カ国の一票の格差を測定したところ、以下のような状況が判明した。図のうち、色が濃い国が一票の格差の高い国である。ラテンアメリカ、アフリカ、ロシア、などにおいて一票の格差が高いことがわかる。

また、和田・鎌原・粕谷は、このデータベースを用いて、どのような要因が一票の格差と相関関係にあるのかを分析した。その結果、これまでの研究で言われてきた要因である、地理的規模、ラテンアメリカであることなどは相関関係にないこと、また、憲法に「法のもとでの平等」という条文が含まれている場合、少数民族や一部の地域に選挙区の優遇的割合がきてされている場合には、一票の格差が高い傾向にあることがわかった。前者に関しては、新興民主主義諸国においては、憲法上の規制を設けていても、実際の選挙運営の未熟さなどを反映しているものと思われる。今後、より多くの国のデータを取得し、どのよ

うな要因との相関があるのかをさらに分析してゆく予定である。



本プロジェクトの第2の柱は、一票の格差が起こる要因についての検討である。これについては、多国間比較データベースを元に、民主主義の程度と一票の格差の程度の間には、下図にあるような逆U字の関係があることを粕谷が Ong と Mori との共著論文において示した（横軸は民主主義の程度を示す指標であるポリティスコア、縦軸は一票の格差の程度を示している）。このような関係が発生する理由としては、権威主義体制のうち選挙を実施する国で政党競合の程度が高まると、政権エリートは区割り操作のインセンティブを強くし、かつそれを制約する法的制限が少ないため、一票の格差が高くなる。一方で、民主主義の成熟度が高くなると、政治家には区割り操作をしたいインセンティブはあるものの、様々な権力抑制制度の存在により平等な区割りが進み、一票の格差が低くなる。より具体的には、司法府の独立、マスメディアの自由度などが抑制の役割を果たすことを示した。また、これらの制約要因を含めた多国間データベースに基づく統計分析を行った結果、これまでの研究で一票の格差を上昇させる原因といわれている小選挙区制の採用や、社会経済的格差は統計的に有意な関係がないことがわかった。



本プロジェクトの第3の柱が、一票の格差に関する検討である。これに関しては、いくつかの国を対象とした事例研究から、次のようなことが判明した。まずブラジルの場合では、憲法規定に起因する、地方の選挙区の過大代表状況があるが、過大代表されている地域の方が帰って経済が停滞することを廣井の論文で示した。その理由としては、過大代

表選挙区は選挙が競合的になりにくく、政治が保守化していくからと考えられる。

マレーシの事例では、現政権のもとで、地方のマレー系有権者が多く住む選挙区に対して多くの議席を配分する形での一票の格差が拡大しており、その結果、現政権が競合的権威主義を維持する一因になっていること、また、議席配分は、与党支持の見返りとして行われることが鷺田の論文により判明した。

さらに、東島による多国間比較データを分析した論文では、競合的権威主義体制の場合には、一票の格差が高いことによって、選挙前後の暴力が低下することが判明した。その理由としては、独裁者は一票の格差を高くしておくことで、直接的かつ批判を招きやすい選挙暴力という手段をとらなくてもすむから、と考えられる。

本研究のこれらの成果は、国内外の多くの学会において報告をした。平成27年には全米政治学会（ワシントンD.C.開催）においてパネルを組み、本プロジェクトの研究代表・分担者（粕谷、和田、鎌原）が報告した。また、世界政治学会（ポーランド・ポズナン市開催）においても、粕谷、鷺田、東島、廣井が論文の口頭報告を行った。

この他、国内学会では、日本政治学会、公共選択学会、公共政策学会、比較政治学会においてパネルを組み、論文の口頭報告を行った。2017年現在、Ong, Kasuya, Mori 論文は、選挙研究の分野では世界最高レベルの雑誌である Electoral Studies において、Revise and Resubmit の状況にある。

本研究ではまた、社会科学の方法論に関するセミナーを研究者一般に向けて公開実施した。具体的なテーマとしては、サーベイ実験、各種実験、因果推論、テキスト分析、コンジョイント分析、英語ジャーナルでの出版事情などについてのセミナーを慶應義塾大学三田キャンパスにおいて実施した。

世界各国の一票の格差に関するデータベースの作成は、平成29年現在も進行中であり、現在140カ国のデータを整備している。これに関しては、平成30年度中のホームページを通じての一般公開を目指している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

和田 淳一郎・鎌原 勇太「衆院選における一票の格差の変遷」『公共選択』査読なし、67、2017、104-121.

粕谷 祐子・東島 雅昌「選挙権威主義からの民主化：議院内閣制の脅威」『比較政治学会年報』査読なし、19、2017、1-30.

鷺田 任邦「権威主義的支配政党下におけるゲリマンダリング：GISを用いたマレーシアの事例分析」『比較政治学会年報』

査読なし, 19, 2017, 57-83.
鷲田 任邦「権威主義体制における一票の格差と財政配分：マレーシアを事例に」『公共選択』査読なし, 67, 2017, 122-139.
Junichiro Wada, “Apportionment behind the Veil of Uncertainty” Japanese Economic Review, 査読有, 637(3), 2016, 348-360.
東島 雅昌「中央アジア諸国における選挙制度の『改革』」『選挙研究』査読なし, 31-2, 2016, 62-76.
粕谷 祐子「一票の格差をめぐる規範理論と実証分析」『年報政治学 政治理論と実証研究の対話』査読なし, 2015-1, 2015, 90-117.

〔学会発表〕(計 12 件)

Higashijima, Masaaki, “Malapportionment and the Value of a Vote, International Academic Societies,” 2016 年 12 月 4 日, International Academic Societies, Shanghai, China.
鷲田 任邦「一票の格差の規定要因：マレーシアを事例に」, 日本政治学会, 2016 年 10 月 1 日-2 日, 立命館大学いばらきキャンパス(大阪府・茨木市).
東島雅昌「一票の格差が選挙暴力及び選挙不正におよぼす影響」2016 年 10 月 1 日-2 日, 立命館大学いばらきキャンパス(大阪府・茨木市).
Junirichi Wada, Yuta Kamahara, Yuko Kasuya “The State of Malapportionment” American Political Science Annual Meeting, 2016 年 9 月 3 日, Philadelphia, USA,
和田淳一郎「一票の平等」, 公共選択学会, 2016 年 9 月 17 日, 慶應義塾大学。
和田淳一郎・鎌原勇太「一票の格差に関する国際比較」公共選択学会, 2016 年 9 月, 慶應義塾大学(東京都・港区)。
Yuko Kasuya “Malapportionment and Judiciary,” International Political Science Association World Congress, 2016 年 7 月 21 日-23 日, Poznan, Poland.
Washida, Hidekuni, “Malapportionment and the Strategic Distribution of Public Spending, Evidence from Malaysia,” International Political Science Association World Congress, 2016 年 7 月 21 日-23 日, Poznan, Poland.
Higashijima, Masaaki, “Malapportionment and the Post-electoral Violence in Electoral Authoritarian Regimes,” International Political Science Association World Congress, 2016 年 7 月 21 日-23 日, Poznan, Poland.
Hiroi, Taeko, “Assessing the Effects of Legislative Malapportionment: The Case of Brazil,” International Political Science Association World Congress, 2016 年 7 月 21 日-23 日, Poznan, Poland.
和田 淳一郎「一票の平等」, 公共政策学

会, 2016 年 6 月 11 日, 日本大学(東京都・千代田区).
Kian-Ming Ong, Yuko Kasuya, Kota Mori, “Malapportionment and Democracy,” 2016 年 5 月 14 日, 日本選挙学会, 日本大学(東京都・千代田区).

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

粕谷 祐子 (KASUYA, Yuko)
慶應義塾大学・法学部・教授
研究者番号：50383972

(2) 研究分担者

和田 淳一郎 (WADA, Junichiro)
横浜市立大学・国際総合科学部経済学コース・教授
研究者番号：30244502
福元 健太郎 (FUKUMOTO, Kentaro)
学習院大学・法学部・教授
研究者番号：50272414
東島 雅昌 (HIGASHIJIMA, Masaaki)
東北大学・情報科学研究科・准教授
研究者番号：10756349
松田 憲忠 (MATSUDA, Noritada)
青山学院大学・法学部・教授
研究者番号：30405550
鷲田 任邦 (WASHIDA, Hidekuni)
早稲田大学・政治経済学術院・助教
研究者番号：50744893
鎌原 勇太 (KAMAHARA, Yuta)
横浜国立大学・教育人間科学部・講師
研究者番号：70710268
白鳥 浩 (SHIRATORI, Hiroshi)
法政大学・公共政策研究科・教授
研究者番号：70285477

(3) 連携研究者

該当なし

(4) 研究協力者

堀内 勇作 (HORIUCHI, Yusaku)

廣井 多恵子 (HIROI, Taeko)